経営理念	保育目標 【あつたか笑顔で、すくすくやすっ子】 経営目標 【子ども一人一人を大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所】 <子ども像> ○友達と元気に遊べる子ども ○自分の思いを持ち、素直に出せる子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども <保育所像> ○一人一人の子どもが大切にされ、楽しく安心して生活できる保育所 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ保育所 ○保護者や地域から信頼される保育所 ○地域の子育てを支援する保育所 <保育士像> ○子どもに寄り添い、子どもの最善の利益を考える保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士 ○保護者と協力し、子どものより良い育ちを考える保育士 ○仲間と創造し協働する保育士 ○豊かな人間性と専門性の向上に努める保育士						
	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		保育所関係者評価員	改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
適正な保育所運営	○ 職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	① 保育所保育指針を理解し、園の経営計画や保育目標等について共通認識のもとに保育を実践する。	毎日の保育を職員間で振り返り週日案に記載し、必要に応じて環境の再構成を行った。研究テーマに沿って、子どもの興味関心から体を動かして遊ぶことができるよう話し合ったり工夫ができた。半数以上の子どもが、用意した環境に関心をもって繰り返し体を使って遊ぶようになっている。	B	異動も多かった中、定期的話し合いをもったり、役割分担をしたりしながら、研究テーマに沿った話し合いができ実践につながったと思われる。	B	年齢の発達や行事の内容により年齢別に分かれたり、園全体で行事を実践するなど、発達の段階を大事にしながら、系統だった保育実践に努める。
		② 一人一人の乳幼児の発達や特性を理解し、心に寄り添った保育を実践する。	発達や特性を捉えたうえで、園庭の環境構成を2か月に1回程度、0.1歳児と2.3歳児に分かれて話し合い、見直しを行うことができた。話し合う機会を設けたことで毎朝の環境設定に進んで取り組もうとする職員の意識が高まった。	B	定期的話し合い、園庭の環境構成に活かされている。達成指標が高すぎたが、80%以上の保育者が環境構成を行えるようになってきていると思われる。行事等での子どもへの関わり環境を見ると丁寧な寄り添いができている。	A	継続して発達を促したり特性を理解した保育実践を大事にして、職員の資質向上に向けた取組や年齢別の保育内容、時間設定を工夫して取り組む。
		③ 生活や遊びを通して子どもが興味関心をもって食に関わる体験ができる保育を展開する。	地域の方のご厚意で全児が芋ほり体験や、焼き芋をその場で食べる貴重な体験ができた。また、3歳児は幼稚園の5歳児との芋ほり体験もでき交流が深まったり、栽培活動を通して食への興味が高まり生長や収穫、食べる経験を楽しみにし、友達と一緒に食べる喜びを味わえた。0.1,2歳児は食に関する手遊びや絵本で興味を示し3歳児が育てた野菜を見たり触れたりさせてもらい、給食に出た時は保育者が知らせると嬉しそうに食べていた。	B	3歳児までの園ということもあり、幼い子どもにとっての栽培活動を考えると、難しいのではないかと捉えたと良く取り組んでいると考察する。	A	来年度は4.5歳児との連携の中でより豊かな経験ができるよう計画的に実施する。また、若い保育者の保育経験にもつながるよう努力する。
充実した保育内容	○ 保育指針に沿って乳幼児の発達に即した保育を展開し望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。	① 防災対策と安全対策を進める。	毎月1回以上の訓練やその都度の振り返りを踏まえた実施案をもとに実践してきた成果として、子どもたちは素早く避難できるようになってきた。全体的な動きを職員全員が意識していくように互いが声を掛け合うことも定着した。今後は想定外の状況にも対応出来る力を身に付けていけるように訓練の内容を工夫していくことが課題である。	B	計画的に実施することができている。高台移転をしたが、防災に関しては終わりが無いのが事実である。これからも引き続きいろいろな想定を考え進めてほしい。	B	これまでの成果もとに想定外の状況に対応できる力をつける。さらに安全性を高めるために運動広場への訓練を視野に入れるなど、訓練の時間の工夫や想定を増やす等を含めマニュアル等の見直しにもつなげていきたい。
		② 保幼小中の連携の推進に向け、子どもの育ちや学びをつなげる取組を充実させる。	幼稚園の4.5歳児と交流する機会が12回あったうえに、新たに小学校1年生と2回交流ができて、幼稚園児や小学生に親しみや憧れの気持ちをもつ良い機会となった。合同職員会での話し合いが、幼小中の取組や課題を知るだけでなく、交流を気軽に行える職員同士の関係が築けたことにつながっている。	B	保幼の交流の充実に加え小学校との交流がもてたことは成果である。保幼小中の今までの交流や歴史を活かして、地域の中で子どもたちが育つよう、これからも充実した交流と子どもたち相互の学びとなるよう努めてほしい。	B	高台移転により小中学校隣接でなくなったため、意識した連携の取組を再構築していきたい。中学生までの子どもの実態を知り、育ちに合った関わりをしながらつなげていきたい。
信頼される保育所	○ 保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	① 保護者の実情や要望を把握し、子どもの育ちを共有しながら、子育て支援・保護者支援を行う。	連絡帳や個人面談、降所時等でのやり取りを通して保護者との信頼関係を築くことができた。また、必要に応じて行事前などに面談の機会を設け、子どもの姿を伝えたり家での様子を聞くこともできた。気になる親子のことは職員間で共有し連携しながら関わりを続けている。	B	保護者と面談等の場をもち信頼関係の構築に努めている。支援を要する子どものいる家庭とは特に配慮しながら保護者支援に努めている。今後も引き続き期待している。	B	悩みに寄り添うだけでなく、保護者が前向きな気持ちになれるような対応や声に出せない保護者の思いに気付き関わるための研修受講、職員間の情報共有に努め職員のスキルアップにつなげる。
		② 保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	感染対策については、毎日の玩具の消毒、掃除や換気、子どもの体調の変化をこまめにチェックするなど意識して取り組んだ。登所時の視診や普段と違ったところがあれば声をかけ細かく聞き取ることも行い、健康状態の把握に努めた。保健だよりを通じて衛生管理について保護者への情報提供ができた。	B	保育室の消毒、手洗い指導など感染対策に努め、家庭への啓発も保健便りで活用されている。様々な感染症に気遣いが必要であるため、予防等に引き続き努めてほしい。	A	引き続き感染対策に努めると共に、手洗いうがいなどマンネリ化している家庭もあるので、啓発に努めていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要